

平成二十五年二月十八日

権力とは恐ろしきものなり。歴史に鑑みるに権力を巡る争ひは壯絶にして騎虎の喩へは眞なり。争ひに敗るときは直ちに命を失ふ。表立ちたる争ひに至らずとも権力者はその地位を窺ふ者を容赦なく滅す。かのオスマン帝國においてはスルタン新たに帝位に即くや自ら縊死せしめんがためその兄弟に絹の布を賜ひ、かくして後顧の憂ひを絶ちしと言ふ。かかる例は古今東西列舉に遑なし。

君主制民主制に變りてもこの事情に變りはなし。一旦選舉に敗れその地位を失ふときは、次期大統領により訴追を受け、投獄せられ、果ては處刑せらるることも稀ならず。これを免れむがため、選舉に介入し、甚しきに至つては政敵を弾壓、暗殺するなど後進國政治の日常茶飯事なり。政權の座にあるとき賄賂により蓄財し、一族の便宜を圖るは引退後の身の安全を確保するために外ならず。かかる不正事、後の報復を招くこともまた事實なり。隣國韓國においても政權を離れし後の大統領ほぼ例外なく末路哀れにして、同情を禁じえず。眞に平和なる政權交代なき限りこれ等の國の政治の腐敗を根絶するは夢のまた夢と言ふべし。

形の上にては選舉制に基づく同じ民主主義とは言へど、政權を離れし後の安全保障の有無は大なる差異にして、この基準を用ゐて政治の成熟度を測ることは政治學者の爲すべきことと非ずや。

上記は韓流テレビ歴史番組を見ての感慨なり。